

下関市総合計画審議会
第1回「優しさ・安全部会」 議事概要

日 時	平成 31 年 4 月 22 日（月） 15：30～17：00
場 所	下関商工会館 3階第2研修室
出席者	下関市総合計画審議会委員 10名（欠席者2名） 下関市総合計画策定委員会 事務局（下関市総合政策部企画課）

【次第】

- 1 部会長・副部会長の選任
- 2 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）について

1 部会長・副部会長の選任

部 会 長：下関市社会福祉協議会 波佐間会長

副部会長：下関市教育委員会 藤井教育委員

2 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）について

部会長

事務局から、素案のうち、序論について説明をお願いしたい。

事務局

（序論の説明）

波佐間部会長

序論の説明をいただいたので、意見ををお願いしたい。

委員

基本計画まではある程度決まっているので、これから実施計画を具体的に話し合うという認識でよいか。このような会議では人口減少という課題に対し、子育て支援・住みよいまちをつくるのがテンプレートのように話される。今の子どもたちが生産年齢になり、納税できるようになるのが10~20年先の話なので、衰退のスピードに間に合わないのではないかと思う。そのため、一番行う必要があるのは、今税金を納めてくれる、買い物をしてくれる生産年齢人口を呼び込む必要があるのではないか。

委員

先ほどと反対意見になってしまうが、日本全体の人口が減少している中、人口を増やすことはそう簡単なことではなく、人口趨勢に合わせた下関市にやれることを具体的に議論したほうがよいのでないか。

部会長

人口減に対し、人口増は現実的には難しいという意見であった。具体的にどうすればよいかはこれから議論されるだろう。その辺りについて、事務局の方としては、あとは各論の方で議論ということでよいか。

事務局

人口減少については序論でも取り上げられているが、各論での子育て支援策・産業振興等についてが、人口対策に繋がると思う。

部会長

序論の３ページあたりに先ほどの少子高齢化対策、人口減少について触れられている。人口推計も掲載されている。各論では、我々は８ページの「優しさ・安心「まちづくり」」に重点を置き、福祉・医療・子育ての方針について議論を深めていく必要がある。他に意見がなければ事務局に第３章の説明をお願いしたい。

事務局

(第３章の説明)

部会長

３章についての説明であったが、ボリュームも多く、ご意見をお持ちの方もたくさんいるのではないかと思われる。ぜひ最初の節の方から順にご意見いただきたい。意見については事務局にその場で回答をいただくことでよろしいか、それとも整理して後日回答いただくのか。

事務局)

今日の審議会で一通りの意見をいただきたい。次の部会でそれに対する対応を回答したい。もちろん、ご質問等はその場でできるものは回答する。

部会長

それではどうぞご意見があればいただきたい。

委員

梅光学院大学で小学校の先生になりたい学生を指導しているが、その中で山口県内、下関市で教員を目指す学生にその理由を面接形式に聞いた。すると、幼少時から地域の方から「おはよう」、「おかえり」、「今日は学校どうだった」等些細な声かけをいただいて自分が育まれたからだという意見がほとんどの学生に見られる。やまぐち型地域連携教育やそのほか地域と連携して教育を行う施策を取ってくれることが、地元に残るということに繋がっていると感じる。

それと、新しい学習指導要領が 2020 年度から開始されるが、学習意欲を向上させる事が重要である。やる気を起こさせないとどんなに知識を詰め込もうとしても頭に入らないので、そのために適切な人員配置が必要だ。1 学級の人数を減らすことも考えられるが、担任の他に、プラスアルファでそれ以外に細かなことにも気づくことができる先生がいれば子どもたちの意欲を高めてくれると思う。その辺りにも配慮があると感じた。

1 つ気になったのは、給食を民間委託やセンター方式にするなど業務を集約する方針になっているが、持論であるが、自校で調理した方が温かいものが食べられるメリットがある。その辺りは、どのようにお考えか。

下関市教育部

現在市内には、自校方式と共同調理方式の学校が混在しているが、アレルギーの子どもたちに対し、その日のメニューのうち対象の料理を提供しないという対応を取っている。ある程度人数がいないと専用メニューの対応ができないのもあり、なるべく温かい給食を提供しつつコスト等を考えて共同調理方式への転換を検討していきたい。

委員

アンケートを 5 年前も今回も答えたが、どのように調査を行ったのか、反映させているのか気になる。

やまぐち型地域連携教育というのがあったが、地域力というのは低下している。地域で育った子どもが流出するなかで、どのようにやまぐち型連携教育を進めていくのだろうか。

給食に関しては、私は自分の子どもたちへの食事に気を使っていたのもあり、自校方式からセンター方式への変更は考えられない。

また、高齢化で行動範囲が狭まっている人が増えている中で、高齢者は近くて便利で内容の充実した公共施設を求めている。生涯学習施設等公共施設の集約など提案されていることが、私たちの実際の生活からかなり遠のいているのではないかと感じる。

市民の意見というのは、アンケートで本当に反映できるのか。もう少し、直接的に市に意見を言えない人たちに対し、どのようにすれば意見を集約できるのか考えてほしい。

部会長

アンケートの件、やまぐち型地域連携教育、共同調理方式への転換に疑問を持っておられるということだが、その辺りに関して回答でしていただけないか。

委員

アレルギー対策一つで共同調理方式への転換を片付けてしまっているのか。今までアレルギーの子どもたちは給食の献立表を見て、親がそれに充当するようなものを作って持参させていた。自校方式ではアレルギーの対策を取りづらいというのは、詭弁ではないか。

下関市教育部

アレルギー対策が理由の全てでない。共同調理方式にも自校方式にもそのメリットがある。例えば、少子化で児童数が8，9人といった学校があるとする。1回の昼食300円に対し、そのような学校に個別に食材を配送することが難しく、コストも上昇している。そのようなことを総合的に判断し、共同調理方式への転換、自校方式の存続の両方を検討したい。自校方式を全てやめるわけでない。

現在、南部の学校は共同調理方式で実施している。中部も南部よりもう少し学校の距離的な範囲を広めて、共同調理方式にするのかは検討段階であり、積極的に共同調理方式を推進するわけではない。

部会長

今の回答で全て解決したわけでないと思うが、委員は納得されたか。

委員

家でも素案を読んだが、文章がずらりと並んでおり、全般的にこれでよいと言われても中身が見えないので、具体的に意見を言うことが出来ない。とりあえず、やまぐち型地域連携教育について教えてほしい。

下関市総合政策部

ひとまず、給食については様々なご意見があるが、総合計画の方では検討の方向性としてご提案させていただいている。どこまで共同調理方式へ転換するのかといった具体的なことは事業計画で検討していく。

下関市教育部

やまぐち型地域連携教育について簡単に説明すると、学校と学校応援団の地域の様々な方々が運営協議会を作り連携して、地域のボランティア活動、小中学校の運営協議会を通して子どもたちをサポートしていく取り組みである。

委員

主旨はわかったが、運営状況について教えてほしい。

部会長

時間が迫ってきたので、運営状況については後日ご回答いただきたい。他に意見はないか。

委員

第4節の社会全体の教育力の向上に学校と家庭と地域の連携とあり、コミュニティスクールも運営され、地域との連携は比較的取れていると思うが、家庭教育力の向上については薄い部分がある。家庭教育力の向上について、ボリューム感を含め強く打ち出すことを検討してほしい。家庭教育力の向上は、それぞれ能力を伸ばすことができ、いじめ問題も含め必要なことだと思う。

委員

3章2節の一人ひとりの生きる力の育成、3節の学校の教育力の向上にあるようなことをして下関で育った若者が下関に戻ってこない現実がある。大学進学で下関を出ても就職先が少ないので戻ってこない。手をかけて育てた下関の子どもたちが戻ってこられるような産業・環境を整備して欲しいと思う。せっかく地域で育てた子どもたちが下関に帰って働く場を市にはぜひ作ってもらいたいと思う。

委員

小中学校進学時から他地域に流出しているように思われる。子どもたちに対し均一な教育するより、素案にあるようにある程度能力・ニーズに合った教育を行わないと小学校から転出したまま戻ってこないことになりかねない。その部分を検討してほしい。

先ほど産業の話が出たが、学校教育の中で地場産業の学習を行えていないのではないかな。例えば、下関の盛んな産業、企業の事業内容を授業で紹介する必要があるのではないかな。

部会長

中学校ではキャリア教育ということで、様々な業種の企業の人をお呼びして、講演を行っている。また、中学生は地元の企業で3日ぐらい職場体験を行っている。不足している部分もあると思うが、現状行っているキャリア教育も記載されていると委員の発言を補充できるのではないかな。3章については以上で終えたい。

それでは、6章の説明をお願いしたい。

事務局

(第6章の説明)

委員

「第1節 生活安全の推進」に「通学路等に面した危険なブロック塀等の撤去費用等の一部助成」とあるが、通学路以外にも老朽化したブロック塀がかなりあると思うので、それにも助成金は支給されるのだろうか。

下関市建設部

今は、通学路と災害時の避難路を対象と考えている。一般的にどの道路にも老朽化した塀はあると思うが、基本的には個人の財産なので、所有者に管理していただきたい。全てに対応すると、個人財産の行政管理になるので、現在は通学路と避難路に絞って安心安全のために対応させていただきたい。

委員

要望だが、道路で白線が消えている部分があるので、補修を検討してほしい。

委員

昨今、想定外の災害が全国各地で起こっているため、国や県がその対策への方針を定めていると思うが、それを超える災害が起こった場合の対策を盛り込んでどうか。

また、様々な道路を掘り返す事業があるが、国の補助金を使うと、(埋め戻す際に)現場の土をそのまま使用している事が多い。現場の土は締まりが悪く、道路が使い物にならないことがある。国は費用削減のためにその方針を取っているが、現場では困っていることを国に伝えて基準をつくりかえてほしい。

委員

自分は豊田町で建設業を営んでいる。公共工事を請け負っているが、災害は公共工事によって解決させるのが対策だという方針にすると、予算の捻出には疑問が残る。

災害を対策する際、公共工事は建設業者が行い、作業には危険を伴う。安全・安心が守られるためには危険と隣り合わせの仕事をする人たちがいるという意識を市民の方々に持っていただければ、こちらとしてもやりがいを感じられる。このような意識の醸成も検討していただきたい。

木屋川ダムの嵩上げについて触れられており、何十年も前から持ち上がっているが、他の大きな災害等により何回も先延ばしになっている。自分は毎日のように木屋川ダムを見ているが、コンクリートなど剥がれている。下関市の水甕^{みずかめ}として、木屋川ダムに万が一のことがあったら水の供給に甚大な被害をもたらすだろう。そのため、市には木屋川ダムの

危険性を踏まえ、各方面に働きかけることを盛り込んでほしい。

部会長

私自身も意見があるが、時間の関係上、他の委員を優先させていただく。他に意見はないか。

委員

私は毎日、唐戸に通っているが、誰かが高架橋を走るとかなり揺れる。高架橋は本当に利用されているのか、必要なのか整理してほしい。旧郡部は老朽化が激しい。高架橋を渡ると車道を横断するより安全というが、全体として高架橋の状況を点検してほしい。

友田川は、ハザードマップの危険区域に指定されており、豪雨の度に警報が出るが、ハザードマップなどについてしっかり説明してほしい。

部会長

高架橋と友田川の件は、次回の時に説明できるようお願いしたい。時間の関係もあるが、他に意見はないか。無ければ、7章の説明をお願いしたい。

事務局

(第7章の説明)

部会長

それでは福祉や医療関係についてご意見があったらお願いしたい。

委員

介護職員の確保とあるが、おそらく無理だと思う。間接業務が多く、事務作業に時間を割く現状にあり、その中には市への提出書類も多いため、必要性を見直してほしい。

要介護認定の書類作成時に現場を離れるので、要介護認定の簡素化も考えてほしい。国や県から方針が定められているかと思うが、現場からするとあまり必要でないという意見を中央に伝えていただければと思う。

市役所内で、保健と福祉の連携があまり取れていないのではないかな。連携を綿密に取ってほしい。

委員

「山口県地域医療構想の実現を目指し、下関医療圏における地域医療の確保のための取り組みを推進します。」とある。公立病院の統合が計画されており、それに伴い予算が削減され、我々の試算によると医療・介護職員の約2000人削減されるとみられる。この事に関

して、パブリックコメントや意見会に参加しているが、市民の参加が少なく、市民に認知されていないのではないかと。医療構想については、広報もよくされているが、いまいち内容を理解できない。中枢中核都市に指定されたので、旧郡部も含めて医療構想のあり方をもう少し再検討してほしい。

障害者の問題だが、現在身体障害だけでなく、発達障害がたくさん存在している。発達障害の人の教育に市としてどのようにアプローチをするか考えてほしい。

委員

7章に限ったことでないが事業概要の記述レベルにばらつきがあり、それなりに揃えるべき。例えば、第3章の3ページでは事業「幼児期の教育・保育の総合的な提供」とあり、事業概要「質の高い幼児期の保育・保育の総合的な提供」とある。しかし、下の「家庭への子ども・子育て支援」は様々な事業が記述されている。第6章の8ページの事業概要では「暮らしに係る衛生の推進」とあり、その下に具体的な事業が紐付いている。それに対し、第6章の12ページでは「上水道の整備等」とあり、いきなり具体的な事業に関する言及がされている。随分施策の体系の取り方に違いあるのではないかと。事業概要に関して書きぶりを統一できるか検討していただきたい。

部会長

全部が統一できるかはわからないが、この件に関して事務局で点検をお願いしたい。時間となったので、本日はこれで終了したい。本日出せなかった意見に関しては、第2回、第3回時に意見をいただきたい。それでは、事務局の方に進行を戻す。

事務局

次回は、本日の議論を踏まえた課題の対応策をお示しするので、意見を頂きたい。

専門部会は月1回開催を予定しており、5月中に1度、6月中に1度開催する。7月中にも開催するかもしれない。何か意見はないか。

部会長

できるだけ早めに日程を告知していただきたい。

事務局

日程に関しては後日お知らせをする。

以上